

受 理 番 号	陳情第30号
件 名	特別な支援を必要とする子供たちとその保護者のために広島市立幼稚園の統廃合を再検討することについて
要 旨	<p>特別な支援を必要とするこどもとその保護者や、子育て環境に悩みを抱える保護者たちのために、広島市立幼稚園での3歳児保育、給食の提供、預かり保育を実施していただくよう陳情する。</p> <p>理由</p> <p>全国的な少子化の影響を受け広島市立幼稚園も園児数減少傾向にある中、広島市では幼児教育・保育ビジョンにより、幼保連携型認定こども園の設置と市立幼稚園の統廃合計画が進んでいる。</p> <p>我が子の教育環境として広島市立幼稚園を選択した私たち保護者は、地域とつながり、先生方や保護者同士との温かい信頼関係の中、こどもと共に園生活に参加し、我が子と向き合いながら子育ての喜びを実感している。小規模の園が多く、先生方はチームで各家庭やこどもの状況に対応し、こどもと保護者に寄り添い、一人一人に応じた指導を長期的な見通しで計画し、個別に支えてくれている。</p> <p>核家族化やコロナ禍、生活様式の変化等、こどもを取り巻く環境は大きく変化し、子育てに不安を抱える保護者が増え、また、特別な支援を必要とするこどもも年々増えていると聞く。地域とつながり、先生や保護者同士と距離の近い市立幼稚園は、特別な支援を必要とするこどもや、悩みを抱える保護者にとって、気軽に相談しやすく、その子のペースで安心して通うことのできる環境である。「他園で入園を受け入れてもらえなかった我が子を市立幼稚園は受け入れてくれ、一緒に育てていこうという言葉が掛けてもらった。」「園でやっていけるのか心配していたけれど、こどもなりの成長を支えてもらい、保護者自身もこどもと共に園生活を楽しむことができた。」という保護者の体験談も聞いている。小規模であり、10人前後の同じ教職員が受け入れてくれるからこそ、新しい人や環境に慣れるまでに時間が掛かり、特別な支援が必要なこどもにも不安が少なく、理想的な環境であると思っている。実際にこどもたちはスモールステップで成長することができている。市立幼稚園が無くなると、今後増えていくと言われている特別な支援を必要とするこどもたちの園選びが更に難しくなるのではないだろうか。</p>

要 旨

しかし現状は、ほとんどの園で3歳児保育がないこと、仕事を持った保護者にとっては、給食や預かり保育、さらには園までの送り迎えもないことが特別な支援を必要とするこどもたちの保護者にとって高いハードルとなっており、公立幼稚園への入園を諦めざるを得ない状況が生じている。このままでは、市立幼稚園が培ってきたインクルーシブ教育の良さをいかす機会が無くなってしまう。特別な支援を必要とするこどもや、子育てに悩みを抱える保護者が市立幼稚園を選ぶことができるように、3歳児保育、給食、預かり保育を実施していただきたいと強く願います。私たちは、広島市の貴重な教育財産である幼稚園が無くなっていくことで、年々増えていく教育ニーズに広島市が応えられなくなることを強く危惧している。

市立幼稚園の現状が園児数減少により厳しいことや、全ての園がこのまま残ることが難しいということも理解しているが、残った市立幼稚園を特別な支援を必要とするこどもや保護者が安心して通える幼稚園教育、特別支援教育の拠点として充実させ、インクルーシブ教育、個別最適な学びの保障をお願いしたいと思う。公立園、私立園が、広島市のこどものために担う役割を明確にし、多様な背景を持つこどもと保護者たちが、それぞれのニーズに応じた園選びをすることができるよう、市立幼稚園を残し、小学校入学前の教育環境を、私たち保護者がニーズに応じて選択できるようにしてほしいと願っている。